

— 『並温・多雨・寡照』 上旬は晴天続いて高温、中旬は顕著な低温、下旬はぐずついた天気 —

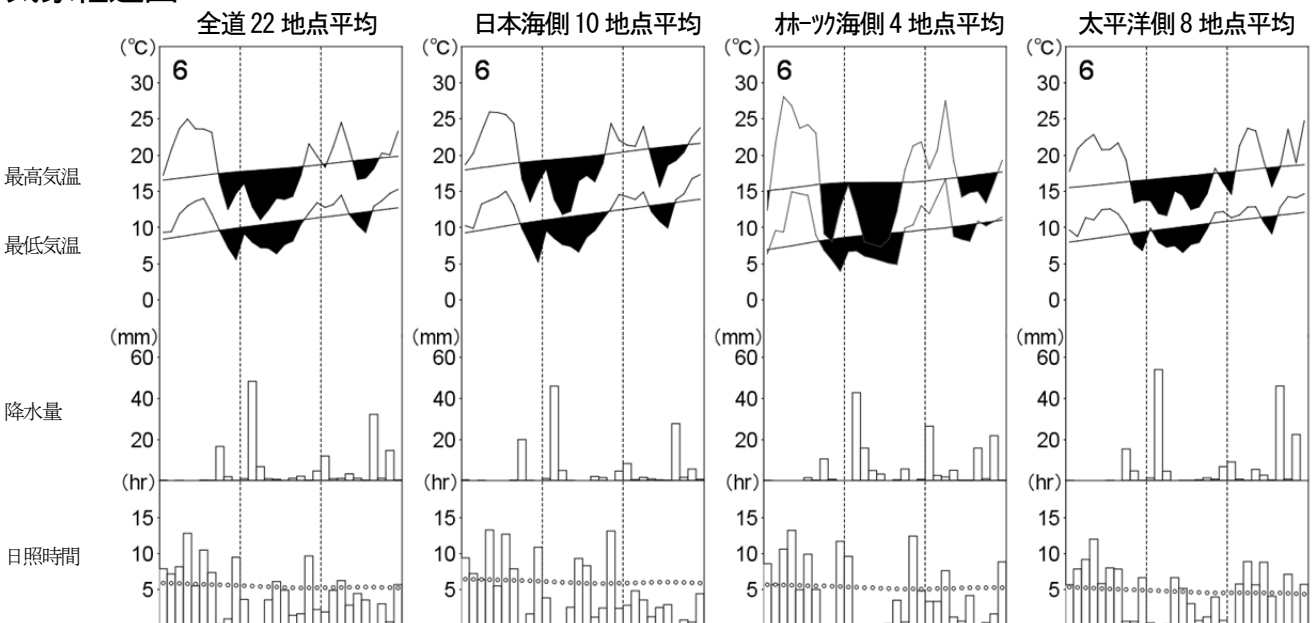
この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かったが、中旬と下旬は気圧の谷や湿った気流、前線などの影響で曇りや雨の日が多かった。気温は上旬は平年よりかなり高かったが、中旬はかなり低く、月平均気温は平年並だった。降水量は中旬と下旬は平年よりかなり多く、月降水量もかなり多かった。日照時間は上旬は平年より多かったが、中旬と下旬は少なく、月間日照時間も少なかった。なお、下旬の日本海側の日照時間は1961年の統計開始以降で最も少なかった。

上旬:1日は気圧の谷の中で、はじめ雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。2~4日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、2日と3日は雨の降った所もあった。5日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、夜には雨の降った所もあった。6日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、大気の状態が不安定となって雨の降った所もあった。7日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、前線や気圧の谷の通過により雨の降った所もあった。8日は低気圧を含む気圧の谷が通過して全道的に雨が降った。日降水量は日高町本町で58.0mmなど。9日は気圧の谷の影響でオホーツク海側や太平洋側を中心に雨が降った。10日は高気圧に覆われて全道的に晴れたが、気圧の谷の影響で太平洋側西部などでは雨の降った所もあった。

中旬:11日は高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側を中心に晴れたが、気圧の谷の影響で日本海側や太平洋側西部では雨の降った所があった。12日は台風第5号から変わった低気圧を含む気圧の谷の影響で、大気の状態が不安定となって全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は鶴居で89.0mmなど。13日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。14~15日は冷たく湿った気流の影響でオホーツク海側を中心に雨が降ったが、14日は太平洋側で、15日は日本海側や太平洋側西部で概ね晴れた。16日は高気圧に覆われて晴れた所が多かった。17日は高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側南部を中心に晴れたが、次第に気圧の谷が接近し雨の降った所があった。18日は気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所が多かった。19日は気圧の尾根の中となって晴れた所が多かったが、湿った気流の影響により太平洋側では雨の降った所があった。20日は気圧の尾根の中となって晴れた所もあったが、湿った気流の影響や気圧の谷の接近により雨の降った所が多かった。日降水量は白老町森野で60.5mmなど。

下旬:21~22日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり全道的に雨が降った。日降水量は21日に枝幸町歌登で64.0mmなど。23日は、はじめ気圧の尾根の中となってオホーツク海側や太平洋側を中心に晴れたが、前線を伴った低気圧が接近して次第に日本海側などで雨が降った。24日は寒冷前線の通過と大気の状態が不安定となった影響で雨の降った所が多かったが、太平洋側では晴れた所もあった。25日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって太平洋側では晴れた。26日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、湿った気流の影響で雨の降った所もあった。27日は前線を伴った低気圧が通過して全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は浦河町中杵臼で113.0mmなど。28日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、太平洋側東部では晴れた。29日は前線の影響で全道的に雨が降った。日降水量は浦河町中杵臼で79.5mmなど。30日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、前線の影響で雨の降った所もあった。

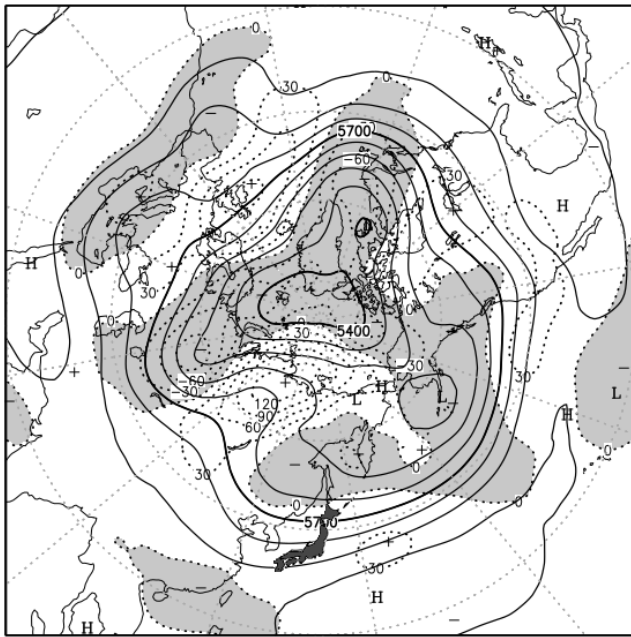
気象経過図



旬別気候表 (気温は平年差(°C)、降水量と日照時間は平年比(%))を示す)

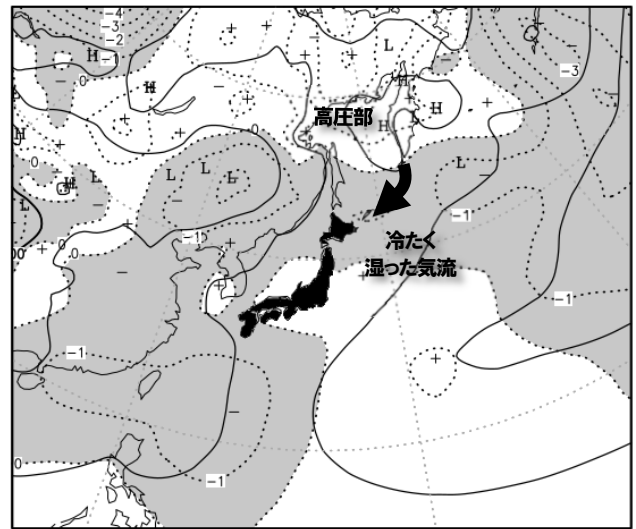
	北海道全域			日本海側			オホーツク海側			太平洋側		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
気温	+2.2 中高	-2.2 か低	+0.7 並	+1.9 中高	-2.2 か低	0.0 並	+2.4 高	-2.1 低	+0.5 並	+2.4 中高	-2.1 低	+1.7 高
降水	88 並	282 か多	299 か多	118 多	334 か多	278 か多	70 並	309 か多	376 か多	61 少	202 多	288 か多
日照	127 多	62 少	65 少	122 多	74 少	39 か少	132 多	60 少	60 少	131 多	46 少	100 並

6月の大気の流れ（北半球の平均天気図の特徴）



6月の500hPa天気図

実線：等高度線（m）、点線：高度の年平均偏差（m）
 陰影部は、平年より高度の低い負偏差の領域を示す。この領域では平年より気温が低い傾向がある。
 日本の上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている状態は偏西風が進行していることを、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強いことを示す。



6月の地上天気図

実線：等圧線（hPa）、点線：気圧の年平均偏差（hPa）
 陰影部は、平年より気圧が低いことを示す。この領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

・500hPa（上空約5500m）天気図

日本付近は東西に高度が高く、暖かい空気に覆われる時期があった。日本の北は高度が低く北海道付近は気圧の谷の影響を受けやすかった。

・地上天気図

北海道付近は気圧が低く低気圧や気圧の谷の影響を受けやすかった。また、オホーツク海付近は高圧部となり、一時的にオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響を受けた。

北海道上空の気温経過

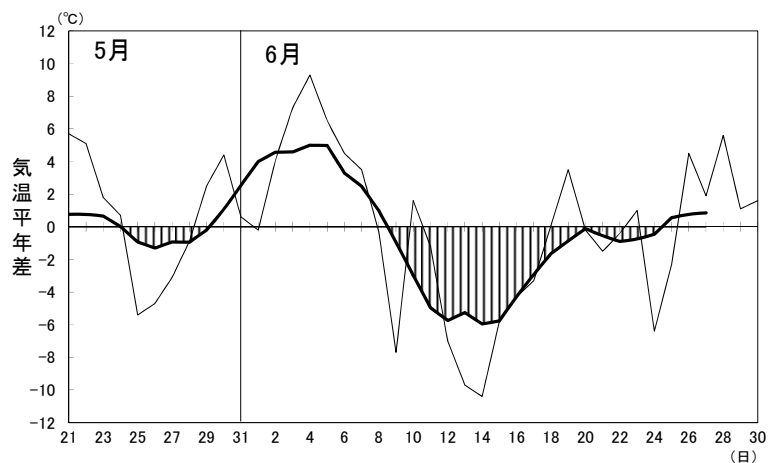
6月の札幌における850hPaの気温年平均差

・7日移動平均（太線）

上旬は概ね平年を上回ったが、その後は平年を下回ることが多かった。

・日別値（細線）

上旬は平年を上回る日が多かったが、その後は平年を下回る日が多く、特に中旬は大きく下回る日があった。



5月下旬から6月の札幌における850hPa(上空約1500m)気温年平均差
 (細線：日別、太線：7日移動平均、陰影線：7日移動平均の負偏差)

月統計値の記録の詳細（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
6月	月降水量（多い）	第1位	北見枝幸	238.0 mm	355 %	199.5 (2016)	1943
		第3位	苫小牧	245.5 mm	256 %	294.5 (2016)	1942
			倶知安	131.5 mm	254 %	182.0 (2017)	1944

お問い合わせ先

札幌管区气象台気象防災部 地球環境・海洋課
TEL (011) 611-6174